

ジルの取り扱い説明書



このたびは、ジルのご予約をいただきまして誠にありがとうございます。

今回お乗りいただくジルはとても快適な車ですが一般車と比べてその取り扱いに大きな違いがあります。どうぞ出発までにこの取扱説明書の注意点をよくお読みください。

それらを意識しつつ丁寧に運転や操作をしていただければ、きっと今回の旅が快適で気持ちよくお過ごしいただけるものとなります。

この取扱説明書を印刷したものを車内にも置いていますのでいつでも簡単に内容をご確認いただけます。

キャンピングカーは速度を出して軽快な走りを楽しむ車ではありません。

先を急ぐ車に道を譲ってのんびりと走りながら、周りの景色の移り変わりを楽しんでください。

そのような余裕のある運転がキャビンにいるご家族の快適さにつながります。

そして大切なご家族を守る意味でも「急」のつくような運転操作は避け、制限速度を守って安全運転を心がけてください。

無事故・無違反で楽しい思い出と共に無事にお帰りいただけることを心よりお待ちしております。

ジルの諸元

全長 518cm 幅 211cm 高さ 302cm 車両総重量 3315kg

乗車定員 (シートベルト数) 7名 推奨就寝定員 大人 5名

エンジン フルタイム 4WD ディーゼルターボ (3000cc)

車両利用料金に含まれている内容について

JoyCa 成田東和田（とうわだ）ステーションが行っているのは基本的にキャンピングカーの貸出です。つまり JoyCa より請求される利用料金の対象となるのは車両および車両付属品です。車中泊・キャンプに必要となるものはこの利用料金の対象外となりますのでご注意ください。

- ・ **キャンピングカー内で使用する寝具（枕を含む）・タオル等は利用者ご自身でご準備ください。**
キャンピングカー内は、FF ヒーターやエアコンで快適にお過ごしいただけるよう温度設定が可能です。寝具としては、夏季シーズンであればタオルケット、それ以外のシーズンであれば普段のキャンプでお使いの寝袋やご家庭で使用されている毛布等で十分です。
- ・ **キャンプ場などで使用するキャンプ用品については原則として利用者ご自身でご準備ください。**
キャンプ用品はご利用様が普段のキャンプで使用されているものをご利用ください。ただし、JoyCa のサービスとは別に東和田ステーション独自オプションとして、有料にてキャンプ道具の貸し出しがご利用いただけます。詳細については別紙をご覧ください。
- ・ **キャビン内は土足禁止となっています。ジルには、ダイネットテーブル下に靴入れが装備されています。**この靴入れに入り切らない靴等は、外履き靴の車内保管には車内に準備している白いポリ袋をご利用ください。ポリ袋の使用のみの場合は有料オプションの対象ではありませんので無料でお使いいただけます。

運転操作上の注意点

ジルは、**全長 5.18m、幅 2.11m、高さ 3.02m、重さは人と荷物も合わせると約 3.5 トン**あります。このため、運転の際に車体サイズに関わる留意事項が 6 つあります。

① 高さについて



画像を見ていただいても車高の高さが分かります。これまで自家用車を運転中に車の高さを気にしながら運転されたことはほとんどないと思います。しかし、キャンピングカーにとっては脅威となる高さ制限のある構造物がたくさんあります。



ファミレスやスーパーマーケットの立体駐車場は低いところだと高さ制限が2m程度のところがたくさんあります。また、コインパーキングの精算機の上方に雨よけの庇が飛び出ている場合もあります。コイン洗車場の入り口に門のように鉄骨のアーチが設置されているところも良くあります。田舎道を走っているとかなり背の低いトンネルを通過するように Google ナビに誘導されることもよくあります。

キャンピングカーの上部前方を何かにぶつけて破損するという事故がとても多く発生しています。

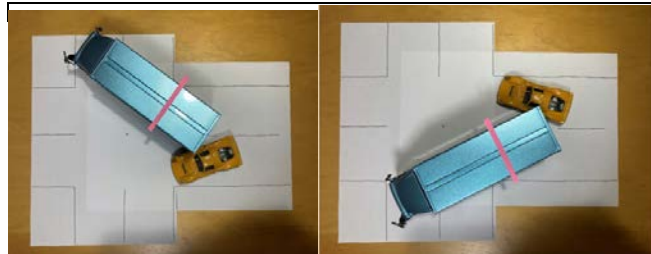


気をつけてといっても普段の運転中には気にしていないことなので、注意力を維持するのはとてもとても難しいことですが、高架トンネルや、立体駐車場などには必ず設置されている高さ制限に関する表示には敏感に反応してください。

キャンピングカー上部（屋根）の修理費はとても高額になりますので、運転の際にはくれぐれも高さ制限を気にするようにしてください。

② 後輪から後部バンパーまでのリアオーバーハングについて

リアオーバーハングを意識しないでいつも通りに旋回を開始した結果、後部バンパーを破損し、高額な修理代が発生する事故が頻発しています。



右左折の際、車体の最後部は、後輪外側の軌跡よりもかなり外側を通過します。そのため、右折時に直進または左折のために左車線に停止している車に車体最後部を接触させる、あるいは、左折時に右折または直進のために右側車線に停止している車に車体最後部を接触させるという事故が頻発しています。

これを防ぐためには、**右折、左折ともに、ハンドルを急に大きく切るのではなく、車体が前進するのに合わせて少しずつハンドルを切っていく操作が必要になります。**

これは前進だけでなく、バックで車庫入れを行う際も同様です。駐車スペースに対して角度がある状態でバックを続けると隣の区画に駐車している車両に接触する可能性があります。何度か切り返しを行って、できるだけまっすぐバックできるところまで角度を浅くしてから駐車スペースに入っていきようにしてください。バックモニターカメラは距離感がつかみづらいので、ギリギリまでバックせず、早めの切り返しを行うようにしてください。

更にバックで車庫入れを行う際、普通車であればリアオーバーハングは車によって差はあるものの5～60cmという場合がほとんどですが、キャンピングカーの場合には、1m以上のリアオーバーハングがあります。



したがって、キャンピングカーで後輪が輪止めに当たる位置までバックしようとする駐車場によってはリアバンパーが障害物に接触する場合があります。したがって、キャンピングカーでバックする際には、必ずバックモニターを参考にして後方の障害物に接触しないようにしてください。ただし、バックモニターカメラの映像では正確な距離が分からないので障害物ギリギリまで近づかないことも重要です。



③ Tail Hit Clearance について



左がジル、右がパタゴニアの写真です。どちらの車両もオーバーハングが1m以上あります。

ジルの方は、Tail Hit しないように後輪からバンパーに向けて少しずつ上がっています。

パタゴニアの方は、後部床下に汚水タンクがある関係で、後輪からバンパーまで水平のままになっています。

そのため、特にパタゴニアにおいては、コンビニなどから道路に出る際に歩道から車道へのスロープの角度が大きい場合には後輪が車道に出たタイミングで後部バンパーがスロープ部分に接触してしまい、そのまま進んでしまうと、後部バンパーを大きく破損してしまう Tail Hit になりがちです。



この Tail Hit を防ぐためには車高の低い車での操作と同じように「段きり」と呼ばれる操作が必要です。段きりとは、歩道から車道に出る際に、できるだけゆっくりとしたスピードを保ち、車道に対して直角ではなくできるだけ角度をつけて進入することで車道に入る際にタイヤが1本ずつ車道に出ていくようにする操作です。

特に、後輪の2つのタイヤが同時に車道に出ることを避ける操作が必要です。

ここで更に注意して欲しいことがあります。

歩道から車道に出る際には、必ず左折で車道に入る。右折して反対側車線に入ろうとしないことです。

片側1車線の道路だと、歩道から車道を直進し、反対側車線に入るように右折したくなります。これが非常に危険です。この反対側車線に入るまでに直進してしまう為に Tail Hit となってしまいます。

歩道から車道に出る際に、Slope 角度を意識し、角度が大きい場合には、絶対に反対側車線に入ろうとしないでください。

④ 横風に煽られやすい

表面積が大きいためトンネル出口や橋の上などでの横風や、大型バス、トラックなどに追い越される際に車体前面から側方に押し出される風によって、キャンピングカーの車体があおられることがよくあります。

強い横風を受けても急ハンドル操作はNGです。ハンドルをしっかりと握り、軽くカウンターステアリングを当てながら直進を保ちます。また速度が速いほど強風を受けた時の風圧が強くなるので、ゆっくりと速度を落として車の安定性を高めましょう。

⑤ 急ハンドルは禁止



キャンピングカーは重心が高い車ですので、急ハンドルは禁物です。

車線変更などの際の合流角度ができるだけ浅い角度になるようにゆっくりと車線変更するようにします。急角度で車線変更しようとするとう重心が高いためにバランスを失って、横転事故となる場合もあります。

ジルはフルタイム4WDのディーゼル車ですので、120kmくらいまで速度は出ますが、そのような速度では安定性がかなり低下しています。

高速道路では80~90km/h、追い越し時のみ100km/hくらいに速度を抑えて安全運転で走行するようにしてください。

⑥ 制動距離が長い

ジルは人員や荷物の重量も含めると車重が約3.5トンになります。ブレーキの効き具合が普段乗られている自家用車よりもかなり悪く感じられ、実際にも制動距離が想像以上に必要になりますので、十分に車間距離を取って走行するようにしてください。

ちなみにジルは背の高い車ですので、車間距離をたっぷり取って走行しても後の車からは見えないので煽られることはほとんどありません。

車外装備品について

運転席から時計まわりで説明します。

タイヤロック



盗難防止のため、東和田ステーションに駐車中はタイヤロックを設置しています。
鍵束の中にタイヤロック解除用の鍵があるのでこれを使用してロックを解除します。
解除するには、ロックの赤色の部分を繋いでいる横棒の中央あたりに鍵穴カバーが付いていますのでカバーを外して鍵を差し込んでひねるとロックが外れます。

車両返却時に設置する際は、鍵穴に鍵を差し込んでひねった状態にするとロックの黒色部分が大きく開きますので、鍵を差したままでタイヤホイールをタイヤロックが外れない位置まで挟み込みます。
位置が決まったら、鍵をぬぎ、カバーをかけます。

外部 AC 電源接続部



車体右側に 100V 外部電源入力があります。
カバーを上上げると車体側接続部（オス側）があり、端を少し持ち上げることができます。
外部電源接続コードは、給油口アクセスドアを開けたカセットガス置き台の横にあるので、これを取り出し
メス部の先端にあるカバーを親指で開きながら、オス部に差し込みます。

外部電源を接続すると車内でピツという音がして、車内運転席後ろ右側の壁に設置されている電圧計に表示される電圧が14V以上になっていれば外部電源が接続されていることが確認できます。

オス部を取り外す時は、フタ部がメス部に引っかかってロックされていますので、親指でフタ部を上へ上げるとオス部を抜くことができます。

外部電源接続コードを外した後は、すぐに給油口アクセスドア内の保管場所に戻してください。
コードの車両への搭載忘れがないように十分に確認してください。

給油口アクセスドア



ジルの給油は、**軽油**ですので間違えないようにご注意ください。ジルの燃料タンクは約**80L**入ります。

- ① 左の写真の給油口アクセスドアはロックがかかっていません。黒いつまみが左右にありますので、それを左右どちらかに回すと留め具が外れ、垂直位置にすると留め具がかかります。アクセスドアは上に向けて開きますので、外部電源接続部の右にあるフックを給油口アクセスドアに引っ掛けて固定します。
- ② 次に、鍵束の中にある給油口用の鍵を使って給油キャップを外し、軽油を給油します。
- ③ 給油が終了したら、給油キャップを給油口にはめて、鍵を使って給油キャップをロックします。
- ④ 次に、留め具をずらして、給油口アクセスパネルをゆっくりと手で支えながら締め、最後に左右の黒いつまみを右に回して、給油口アクセスパネルが走行中に開かないようにロックがかかっていることを確認します。

誤ってガソリンを給油してしまった場合 それ以上車を走らせないことが原則です。

以下のどれかの対応を速やかにとってください。

- ・ガソリンスタンドにいるなら店員に燃料を抜いてもらえないかを確認する。
- ・走行中なら速やかに停止。
- ・ガソリンスタンドで対応できない場合や走行開始後の誤給油に気がついて停車した場合には、まずコールセンター（[0120-310-950](tel:0120-310-950)）に状況を伝えてください。発生場所や状況により速やかな対応が難しい場合にはJAFや任意保険のロードサービスを利用することも可能です。

誤給油のまま走行を続けると

ディーゼル車にガソリンを給油すると、以下のような事態が起こります。

- ・エンジンがかかっても、すぐ力がなくなる
- ・エンジン音が高くなる
- ・アイドリングの不調が生じる（振動や異音）
- ・白い排気ガスが出る
- ・エンストを起こす
- ・エンジンがかからなくなる

一般に、ディーゼル車の方が誤給油による影響が大きいです。残った軽油でエンジンの始動ができて、ガソリンの潤滑性がないため、すぐ走れなくなります。また、燃料噴射ポンプも故障しやすいです。

燃料の入れ間違いでかかる費用

- ① タンク洗浄だけなら（1～5万円）
- ② 誤給油をして車を走らせ、アイドリングの不具合をエンストなどが起こった場合は、配管やエンジンの洗浄、さらには部品交換が必要となる可能性があります。配管部品などの洗浄や交換が生じると、そのための費用が5～10万円、燃料の供給部品（インジェクター）の交換が必要になると2～10万円ほど必要になります。さらにエンジンの大規模な修理が必要なら、最終費用は数十万円以上になる可能性もあります。

とにかく誤給油した場合には車両を整備工場に運び誤給油した燃料を抜き、タンク内の洗浄を行うことが基本対応です。

給油の際、利用者ご自身の給油カードやクレジットカード、現金などのお支払いは不要です。

JoyCa ではガソリン代については、距離料金として車両返却時に確定する利用時間内の走行距離に応じてあらかじめ設定している距離料金（30円/km）にて利用終了後に精算させていただいています。なお、この距離料金は、軽油価格の高騰などの影響により適時見直しを実施しています。

運転席サンバイザーに ENEOS ビジネスカードを装備していますので、給油カードとしてお使いください。



ENEOS ビジネスカードは、全国どこの ENEOS ガソリンスタンドでも契約料金にて給油ができますが、高速道路にあるガソリンスタンドでの給油については契約価格が適用されませんのでご注意ください。給油レシートは、グローブボックス内に領収書入れとして小型クリアファイルを設置していますので、そちらに保存をお願いいたします。後日管理者がレシートを回収します。

運転席インジケーターにある給油ランプ点灯後一般道で約 50km の走行が可能ですが、早めの給油をお願いいたします。およその燃費は荷物の積載量や運転の仕方にもよりますが、一般道 5～7km/L、高速道路 7～9 km/L です。

原則として車両返却の際の満タン返しの必要はありません。しかし返却時に給油ランプが点灯するような場合には、お手数ですが少なくとも 5L 分の給油の上での返却をお願いいたします。

(JoyCa の FAQ から抜粋)

クルマに搭載されているガソリンカードの提携スタンドが見つからずガス欠になりそうな場合、恐れ入りますが、最寄りのガソリンスタンドでお客様が料金を一旦お立替えのうえで給油をしてください。その際、必ずお立替えいただいたガソリン代の領収証を受領いただき、コールセンター (0120-310-950) までご連絡ください。後日、領収証と引き換えに JoyCa より返金させていただきますので、下記送付用封筒にて領収証を弊社までお送りください。なお、返金方法はご利用料金との相殺 (相殺が可能な場合) となります。

カセットガス取り付け台



カセットガス取り付け台は、給油口アクセスドアを開けた中にあります。

白いカセットガスホルダーは、上の部分を内側に握るようにすると引っ掛かりが外れます。下側を支点として上側が外れて回転します。90度回転させたところで、ガス缶の取り外しができます。



カセットガスをホルダーにセットしたら、ガス供給機上部にある元栓を開きます。

つまみが縦位置 (閉と同じむき) なら元栓は閉まっていますので、反時計回りにつまみが止まる場所まで回すと (開の位置) になりガスが供給されます。

あとはガスレンジの方で家庭用ガスレンジと同じようにして使用します。

※走行中はガスの元栓を閉め、車内でガスを使わないでください。

給水口 利用者がこの給水口から給水することはありません



給水口は、マルチルームアクセスドアの右側にあり、鍵束の中の給水口の鍵で開け閉めできます。清水タンクには60Lの水を貯めることができます。この給水口から給水するためには水道ホースを差し込んで給水を行います。

車両出発前に東和田ステーション管理者が約30L分の給水をした状態で利用者に引き渡します。

清水タンクを満タンにすると燃費が悪くなったり、車両左右の重量バランスが悪くなるなど、運転に影響が出てしまうので、給水は目的地に到着してから行うことが望ましいのですが、移動中や目的地到着後の利用者の不便を解消するために便宜的に30Lだけ給水しておくこととしています。

清水タンクの水は手洗いや洗顔、食器洗いなどにお使いください。飲料水は、ペットボトル等の水を利用されることをおすすめします。また、汚水タンク内の洗浄ができない構造となっているため、食器洗いの際には残飯などの固形物を水と一緒に流さないようにご協力をお願いいたします。



もし、旅行途中で給水が必要になった場合は、水道ホースを車両に搭載していませんので、車内から清水タンクにアクセスしペットボトルややかんなどの容器を利用して、少しずつ給水するようにしてください。

清水タンクはダイネットの後方側シートの下にあり、マットレス、中敷板の順に外すと車体壁側に白くて丸いカバーがあり、これを回してカバーを外すと、ここからも清水タンクに給水することができます。

水が溢れるのを避けるため、走行開始前にはこの白いカバーが確実に閉まっていることを確認してください。

マルチルームアクセスドア



縦に細長いドアは、トイレルームに外部からアクセスできます。

その左の窓の下の白い横長のドアは2段ベッドの下段の床下にある物置に外部からアクセスするドアです。

グレー部分の横長のドアは、濡れたテントなどの室内に入れたくない汚れたものなどを帰着まで収納することができる物入れ用のドアです。

外部ゴミ専用収納庫



後部ナンバープレートが取り付けられている部分は、外部ゴミ専用収納庫になっています。

このゴミ収納庫には生ゴミの入った袋など車内に入れたくないもの等を入れて目的地まで運ぶことができます。

ナンバー取り付け部の右の方に鍵穴があるので、鍵束の中のアクセスドアの鍵を使ってロックを解除します。次にスライド部分の上に2箇所ある黒いハンドルを90度回転させるとロックが外れて、ゴミ収納庫がスライドして出てきます。ゴミなどを入れた後は、逆の手順で確実にゴミ収納庫が走行中にスライドアウトしないように確実にロックをかけてください。

東和田ステーションには管理者は常駐していないため車両返却時にゴミを回収することはできません。必ず利用者がゴミを持ち帰ってください。

はしご 使用禁止



スタッフが洗車、メンテナンス等の際に使用します。
利用者がはしごを使って屋根に登ることは禁止します。

2段ベッド下収納庫外部アクセスドア



このドアは車体右側にあるドアと同じく、2段ベッドの下段の床下にある物置に外部からアクセスするドアです。

汚水タンク 排水レバー **排水作業は管理者が行うので基本的には利用者が排水する必要はありません**



汚水タンク排水レバーは、車両左側の後輪の約30cm後にあり、目印のテープが貼ってあります。

右側の写真の上部右側にT字のバンドルがありますが、これが排水レバーです。

汚水タンクには、約80Lの汚水を貯めることができます。

排水しない場合はこのレバーが一番奥（車両前方向）まで押した状態にします。排水の際には、レバーを一番手前（車両後方向）まで引きます。レバーを引くとすぐに重力により排水が始まりますので、排水口の真下にバケツなどを置いてから排水レバーを引くようにしてください。

排水が終わったら、レバーが一番奥まで押し込みます。

排水タンクは約80L分の容量がありますが、それ以上の清水を使った場合には流し台シンクから水が流れない場合があります、その時には利用者が排水作業を行う必要があります。

排水を行う場合は、必ず車載のバケツを排水口の下に置いて地面に直接垂れ流さないようにしてください。

基本的には車両返却終了後に東和田ステーション管理者が排水作業を行います。

エントランスドア



エントランスドアの開閉は、鍵を使って行います。リモコンによるロックのON/OFFはできません。

また、鍵穴のある黒い金属プレートはドアノブの上にあるため、鍵を差したままドアノブを開けようとする

鍵が車体に干渉してしまい、最悪の場合鍵を破損してしまう可能性があります。

ドアロックの解除をしたら、鍵を抜いてからドアノブの操作を行うようにしてください。

夜間エントラードアを開けて車内に入ろうとしても車内ライトがわかりにくい位置にあります。そのため、エントラードア右側にある換気扇側の壁にタッチセンサーライトを設置しています。

まずはタッチセンサーライトにより車内を明るくしてから、室内灯を点けるようにしてください。

エントランスステップ

走行開始前には必ずステップが収納されていることを確認してください。



ジルのエントランスは段差がやや大きいため、エントランスステップが装備されています。ステップの手前を部分を引けば出てきますし、押せば収納されます。

走行開始前には必ずエントランスステップが収納されていることを確認してください。

エントランスドアストッパー



エントランスドアをフルオープン状態で固定する際に使用します。

車体側にある T 字状になった掛け具をドア側に引っ掛けて使用します。

掛け具を外す際には、ドア側に板バネ状のストッパーがありますので、これを指で押し込むと掛け具を外すことができます。

掛け具は金属製ですが強度があまりありませんので、掛け具を引っ掛けた状態でエントランスドアを思い切り閉めようとするとう掛け具を破損する可能性がありますので、エントランスドアの開閉には掛け具の位置にご注意ください。また、強風時に掛け具を使用することは同様の理由で避けてください。

サイドオーニング 使用禁止



サイドオーニングとは、車体左側上部に設置されている可動式の日除けです。

サイドオーニング展開中に強風に煽られるなどして大きく破損する事故が多発していますので、使用禁止とします。

サイドオーニングに破損が発生した場合、車両保険の補償適用外のため、理由を問わず免責なしの実費での修理費用を請求いたしますのでご注意ください。ちなみにパーツだけで価格約 25 万円です。

左側サイドミラー



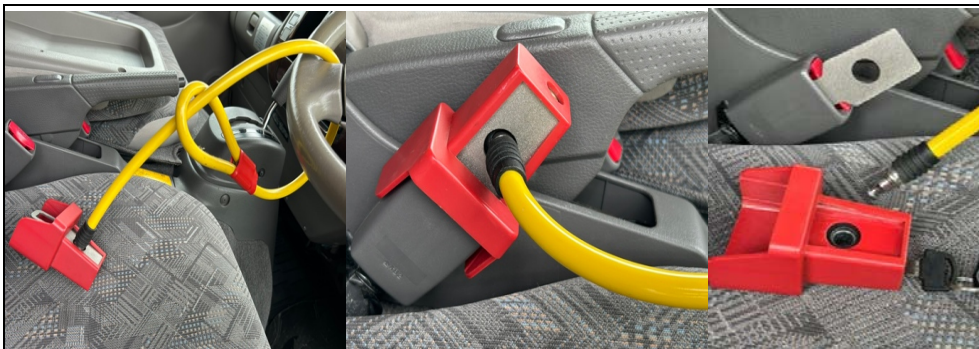
ジルの左側サイドミラーはトラックのようなサイドミラーとなっています。

電動で展開・格納スイッチがついていますので、スイッチの「SET」側にするとサイドミラーが展開、「CLOSE」側にすると格納できます。

ただし、ミラーの運転席からの見え方の角度調整は手動で行ってください。

運転席装備品について

ハンドルロック



盗難防止のために東和田ステーションに駐車中はハンドルロックをかけています。

- ① ロックを外すには、鍵束の中のハンドルロック解除用の鍵をシートベルト掛けに差し込んでいるマウントの鍵穴に差し込んで回します。鍵を回すと真ん中の写真の黄色のコードを手前側に引き抜くことができます。
- ② 黄色のコードを引き抜くと、右の写真のようにシートベルト掛けに差し込んでいる赤いカバーを外すことができます。
- ③ 最後にシートベルト掛けに刺さっているシルバーの金具を、通常のシートベルトを外す時と同じようにしてロックを外します。

車両返却時にハンドルロックをかける際は、左の写真のように黄色のコードをハンドルにからませます。次に、シルバーの金具を赤いマウントに差し込み、右の写真の状態を作ります。この状態から、真ん中の写真のようにシルバーの金具をシートベルト掛けに差し込みます。

エンジンの掛け方

ジルは、ディーゼルエンジン車です。

ガソリンエンジンとディーゼルエンジンでは、エンジン始動時の点火方式の違いがあります。

ガソリンエンジンは、火花点火で混合気を着火させて燃焼する「火花点火」方式となりますが、ディーゼルエンジンは、圧縮して高温になった空気に高圧の燃料を噴射して、自着火して燃焼する「圧縮着火」方式となります。

この圧縮着火方式は、低温時では圧縮空気の温度が下がり、エンジンも冷えた状態なので着火が不安定になり、極低温では始動できないこともあります。

そのため、予熱装置を取り付けエンジン始動時と始動後圧縮空気を暖めてエンジンが円滑に回るようにします。

この予熱補助装置を「グロープラグ」といいます。

エンジンを始動するには、キーを回してイグニッション ON で、グローが動作(点灯)する構造になっています。



このまま約3～5秒ほど待ちます。その後グローランプが消灯すれば、余熱完了になります。



ちなみに、余熱完了前にセルを回すと普通はエンストしますが、通常より倍以上のセルを回しアクセルを踏めば、大量の白煙と共にエンジンはかかります。

ただし、エンジンと始動バッテリーに大きな負荷がかかりますので、余熱が完了したのを確認した後にエンジンを始動するようにしてください。

左側サイドミラー展開スイッチ



ジルの左側サイドミラーはトラックのようなサイドミラーとなっています。

電動で展開・格納スイッチがついていますので、スイッチの「SET」側にするとサイドミラーが展開、「CLOSE」側にすると格納できます。

ただし、ミラーの運転席からの見え方の角度調整は手動で行ってください。

ドアの集中ロックについて

ジルのエンジンキーについているリモコンで運転席、助手席、ドアロックを同時に ON/OFF できます。

エンジンキーをドアのキーホールに差し込んでの開錠は、キーを差したドア側のみとなりますのでご注意ください。

運転席・助手席以外の全てのドアについては、エンジンキーとは個別の鍵を使用して手動にてドアロックの ON/OFF を行います。

ETC カード車載器 ETC カードは利用者ご自身のものをご使用ください。

ETC カード車載器は、カーナビの下にあります。適用される車両区分は普通車料金です。
極稀に発生する不具合ですが、高速道路料金所の ETC カード読み取り機の設置によっては、キャンピングカーのバンクベッド部分が運転席上方に張り出していることが原因と思われるが、ETC カード情報の読み取り不能となり、ETC カードの車載器への未挿入と同様の状態となりバーが開かない場合があります。料金所のバーが開かない場合があります。これを予想しての徐行をお願いいたします。
また、バーが開かなかった場合は、料金所係員に ETC カードを手渡しして、ETC カードを車載器に未挿入の場合と同様の手続きを行うことで ETC ゲートを通過してください。

ETC カード車載器管理番号は、00004-00106720-044320 です。
インターネットなどで ETC カード利用記録を検索する際にご使用ください。

キャビン内装備品について

車内は全て禁煙、キャビン内は土足禁止です

(主電源) メインスイッチ



メインスイッチは、エントランスを入ってすぐ左側、助手席後方のサードシート側面下方にあります。メインスイッチをONとすると、サブバッテリー（2台搭載）からDC電源が共有される状態となります。

メインスイッチ ON にすると、以下のライトが使用できます。

ポーチライト、エントランス真上のダウンライト、ダイネットテーブル上方のダウンライト、ダイネット側スライド窓の上にある蛍光灯、エアコン室内機右側方にあるバンクベッド用ナイトライト、ガスコンロ上の換気扇、換気扇用ライト、流し台を照らすライト、電子レンジ上方にあるダウンライト、2段ベッドのそれぞれの段にある蛍光灯、マルチルーム（トイレ）天井灯がメインスイッチ ON で使用できます。ライト以外にも、天井にある MAX FAN、冷蔵庫、FF ヒーターが使用できます。

現在冷蔵庫の電源スイッチが硬くて OFF にできません。メインスイッチが ON の時には必ず冷蔵庫の電源も入っている状態となっています。バッテリー上がりを避けるためキャンピングカーの使用を終えて車両を返却する際には、必ず主電源スイッチを OFF にしてください。

インバーター電源スイッチ



インバータースイッチは運転席後方の壁についています。

スイッチの黒いボタンを押すと、ピピっという音がして、赤いランプがつかます。

このスイッチを ON にすると、サブバッテリーの DC12V をインバーター(1500W)により AC100V 変換し自宅と同じように電気製品が使用できるようになります。

インバータ電源を ON にすると電子レンジ、テレビ、車内各所にあるコンセントが使用できます。電子レンジを使用する際には、Load Shedding が発生し、電子レンジへの給電が停止する場合があります。

エアコンについてもインバーター電源があれば使用は可能です。しかしバッテリーのみによる電源供給では数時間でバッテリー容量を使い切ってしまうため、キャンプ場の外部 AC 電源などを利用してください。

流し台



ジルの清水タンクは 80L の容量があり、マルチルームと背中合わせになっているシート下にあります。シートクッションと底板を外すと白い蓋があります。これを回すことで蓋が外れます。蓋を開けた底の部分に排水栓があるので、これが閉まっていることを確認してから給水します。タンクからは電動モーターにより蛇口をひねると水が出てきます。シンクから流れ出た汚水は、車体下に設置されている汚水タンクに貯水されます。

この電動モーターも主電源スイッチを ON にすることで作動します。

清水タンクへの給水は、車両貸出時点で約 40L 分の給水を管理者が行った状態での貸出となっています。

清水タンクの水は手洗いや洗顔、食器洗いなどにお使いください。飲料水は、ペットボトル等の水を利用されることをおすすめします。

ただし、汚水タンク内の洗浄ができない構造となっているため、食器洗いの際には、残飯などの固形物を水と一緒に流さないようにご協力をお願いいたします。

なお、汚水タンクの排水は車両返却後に管理者が行います。利用者が排水作業を行う必要はありません。

ガスコンロ

ジルには常設のガスコンロが設置されています。車体右側の給油口アクセスドアを開けたところに、カセットガスを 2 本セットできるようになっています。(1 本でもガス供給はできます)

一酸化炭素中毒防止のため、車内での調理の際には窓を開ける、換気扇を作動させるなど換気には十分ご注意ください。



火力調整つまみは、消火位置である●、強火、弱火の3段階になっています。
点火するには、●位置から強火位置につまみを回し、つまみを押した状態のままで、2つの火力調整つまみの間にある黒い着火ボタンを押します。点火しづらい場合には、着火ボタンをなん度もカチカチと押ししてください。着火してもバーナー全体に火が回るまでに少し時間がかかる場合があります。
バーナー全体に火が回ったら火力調整つまみで必要な火力にセットしてください。
また、火力は2つあるコンロの左側が弱め、右側が強めとなっています。

車内での調理については、焼肉や揚げ物など、室内に匂いが残ってしまうような調理はお控えください。
ガスコンロの使用は、お湯を沸かす、トーストを焼く、卵やソーセージを焼くなどの簡単な調理に止めるようにし、電子レンジの活用をお願いいたします。

※走行開始前には必ずガス供給機の元栓を閉め、走行中にはガスは使用しないでください。

その他のスイッチ



流し台側面にはいくつかのスイッチがついています。
右から、電圧計（使わない）、清水タンク水量計、電動ポンプスイッチ、キッチン用ダウンライト、ボイラー点火スイッチ、よく分からないスイッチ（使わない）です。

清水タンク水量計



特に操作は必要なく、インバーターが ON になっていれば水量を表示してくれます。

電動ポンプスイッチ



流しにある蛇口から水を出すためには、このポンプスイッチを ON にする必要があります。
ポンプスイッチを ON にしていれば、メインスイッチが ON であればインバーターが ON でなくてもポンプは作動します。

キッチン用ダウンライトスイッチ



メインスイッチが ON であれば、電子レンジ上方にあるダウンライトが点灯します。

ボイラー点火スイッチ



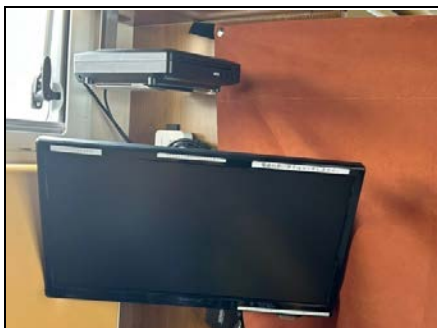
ボイラーには、清水タンクから水が供給され、ボイラータンクに溜まった水がボイラーによって温められお湯になります。ボイラータンクは約 22L の容量があります。

お湯を使うまでの操作は以下の通りです。

- ① 清水タンクに水を貯める
- ② ポンプスイッチを ON (インバータースイッチが ON であること)
- ③ 流しにある蛇口を最高温度である一番上まで回す。
ここでモーター音がしますが、まだ水は出てきません。
- ④ 蛇口を最高温度位置で回すことで清水タンクからボイラータンクへ水が供給され、蛇口から水が出てくればボイラータンクにも水が溜まっている状態となります。
- ⑤ ボイラースイッチを ON にしてボイラーを点火します。
- ⑥ 約 1 時間ほどで最高温度の 60°C となります。このお湯を水と混ぜて適温にして使います。
- ⑦ お湯がぬるくなってくるとボイラーが勝手に点火して温度を維持します。

- ⑧ ボイラー内のお湯が無くなったら、再び清水タンクからボイラータンクに水を供給し沸し直します。
※走行開始前には必ずガス供給機の元栓を閉め、走行中にはガスは使用しないでください。

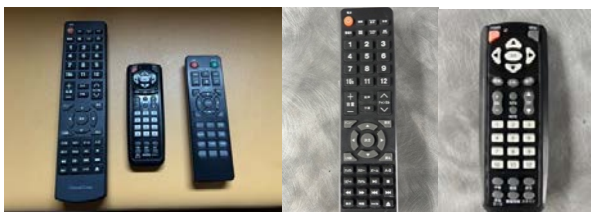
テレビ



以下の映像をテレビモニターにより見ることができます。

- ① テレビ放送
- ② DVD 映像

実際にテレビを見るには、これら3つのリモコンを使います。



インバータースイッチが ON になっていることを確認します。

左の大きなリモコンを使って、TV の電源を入れ、入力切り替えスイッチで AV を選択します。

チャンネルの切り替えは小さいリモコン（チューナー切り替えリモコン）を使います。

視聴できるのは地上デジタル放送で、千葉県チャンネル設定となっています。地方に行かれた場合にはチャンネルの再設定が必要となります。



DVD を見る際には、このリモコンにより DVD 本体の電源を入れて使います。

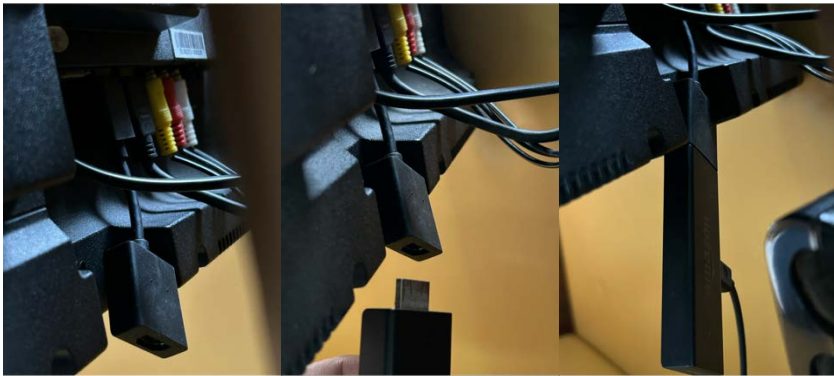
Amazon Fire Stick TV

有料 Option を申し込んだ場合に使用できます

- ① Fire Stick TV 用の HDMI 端子をテレビに接続します。



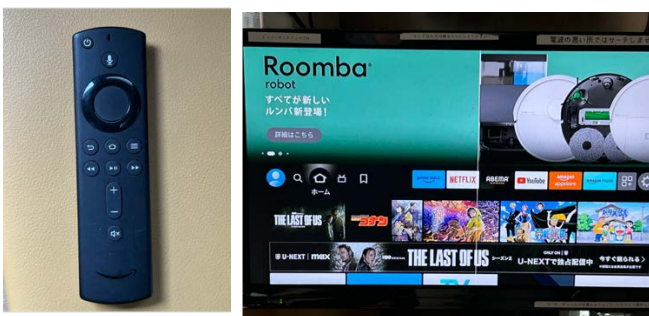
- ② テレビ側 HDMI 端子にすでに接続されているアダプターと接続します。



- ③ 電源プラグをコンセントに指します。（インバータースイッチが ON であることを確認）
④ テレビリモコンの入力切り替えで HDMI2 を選択



- ⑤ Fire Stick TV 用リモコンでホーム画面を選択し、所望のコンテンツにログインする。



FF ヒーター



FF ヒーターとは、エンジンを動かさずに車内暖房を可能とする燃焼式ヒーターです。テントキャンパーがすぐそばにいるキャンプ場など静粛性を要求される場所で使用します。FF ヒータースイッチパネルの「HEATER」 ボタンを押すとボタン上部の緑色ランプが点灯し、FF ヒーターの電源が入ったことを示します。

しばらくすると、車内の吹き出し口から空気の送風音がしてきます。さらに時間が経つと、ポンプの回転するようなカタカタ音がした後、ジェットエンジンがスタートするように始動音がだんだんに大きくなり、暖かい空気が吹き出し口から出てくるようになります。あとは、お好みの温度設定となるように、「UP」「DOWN」のボタンにより調節します。室内が所望の温度に達するとサーモスタットの働きにより、燃焼状態がコントロールされます。

FF ヒーターは、燃料タンクからエンジンにつながる Fuel Line を分岐させてヒーターへの燃料として使用しています。また、燃焼にあたっては車外の空気を取り込み、車外に排気されます。車内の空気は全く汚れないため一酸化炭素中毒の心配はありません。

燃費は、外気温や室内温度設定によっても異なりますが、一晩中使用しても、4～5L 程度です。

FF ヒーターの使用を終えるときは、「HEATER」 ボタンを再度押すことで停止します。ボタン上部の緑ランプが消灯することを確認します。

スイッチを OFF にしてからしばらく時間差があった後にヒーターの音がしなくなり完全停止します。

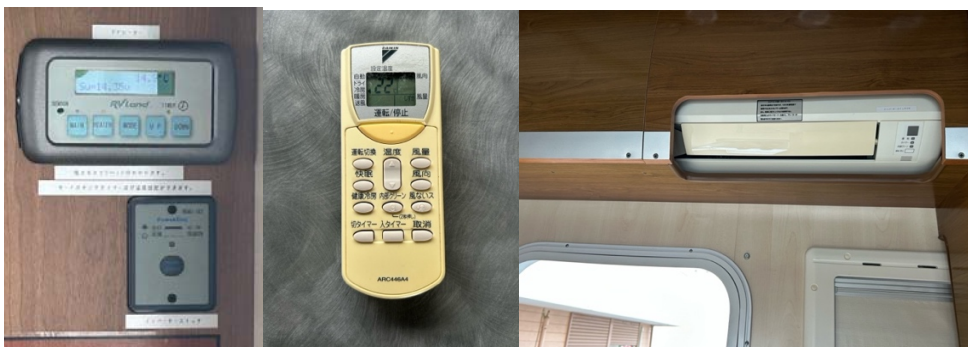
エアコン

ジルのエアコンは家庭用エアコンと同じものが装備されていますので、暖房にも使用できますが冷房専用としてお使いください。

暖房は FF ヒーターを使用する方が暖房効果が高く、バッテリー容量も消費しません。

エアコンの使用はバッテリー駆動でも 4,5 時間程度なら可能ですが、バッテリーが上がってしまうとエアコンだけでなく他の電化製品も使用できなくなってしまいます。

原則としてキャンプ場など外部 AC 電源を接続しての使用に限定するようにしてください。



- ① 運転席後方のインバータースイッチ（運転席後方の壁に設置）が ON になっていること確認後します。
- ② リモコンスイッチ（白いリモコン）の電源を ON にすればエアコンが作動します。

走行中はエンジンの熱を吸い込んで室外機がオーバーヒートしてエアコンの作動が止まってしまう。
走行前には、必ずエアコン電源を OFF としてください。

冷蔵庫



冷蔵庫はガスコンロ下にあります。

コンプレッサー方式で容量は 65L あります。製氷室では氷を作るもできます。
エントランスドアすぐにある主電源スイッチを ON にすると使用できるようになります。

冷蔵庫ドアの上部にあるダイヤルスイッチは最初から 1 時の位置にあり、メインスイッチを ON にするとすぐに冷蔵庫の電源も ON となります。このダイヤルスイッチを更に時計回りに右に回すと冷却温度を低く設定できます。

車両レンタル利用開始時には全く冷却されていませんので、レンタルを開始したら、まず冷蔵庫の冷却を開始します。約 1 時間で冷蔵庫内が十分冷えた状態になります。（製氷室も使用できます）
スーパーやコンビニで冷凍食品等を購入し、冷凍庫に入れることで冷却時間を短縮することもできます。

時計回りに一番左まで回した状態が最低温度となりますが、温度設定を低くするほど消費電力が大きくなります。

冷却開始時は最低温度設定とし、庫内が十分に冷えた後の定常状態でのスイッチの位置が 5 時位になるあたりがバッテリー消費を抑えることができるのでおすすめです。

現在、このダイヤルスイッチは固くて 1 時位置よりも左に回すことができないため、ダイヤルスイッチにより冷蔵庫の電源を OFF にすることができません。

冷蔵庫の電源を OFF にするには、メインスイッチを OFF にする以外に方法がありません。

車両を返却する際には、バッテリー上がりを避けるため必ずメインスイッチが OFF になっていることを確認してください。

また車両返却の際は、冷蔵庫内を乾燥させカビの発生を防止するために、冷蔵庫のドアは開けたままにし、製氷室ドアにスキマを開けるために付属のタオルを挟んでください。

MAX FAN



MAX FAN は天井にある吸排気どちらにも使用できる換気扇です。

春先や秋など、エアコンを使うほどでもない気候の時や、車内を換気したい場合に使います。

左から2枚目の写真のハンドルを Open 方向に回すと、MAX FAN 上部にある上部カバーが持ち上がり、外気を取り入れやすくなります。

右から2枚目の写真は風量調整を行うつまみで、0が停止、3が強風になります。

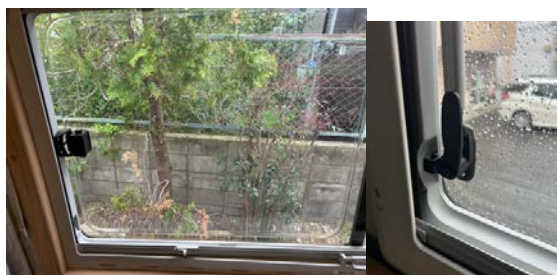
一番右の写真のスイッチは、吸気と排気の切り替えスイッチです。吸気⇄排気を切り替える際は、風量スイッチを必ず0位置にして、FANの回転が止まってから切り替えるようにしてください。

窓

キャビンの窓には2種類あります。

ダイネット横、車体の進行方向に向かって右側にあるスライド式窓と、それ以外の場所の押し出し窓です。

- ・スライド式窓は、窓左側の中央にあるツマミを握るとロックが外れるので、そのまま後方向に引っ張ると窓が開きます。



- ・押し出し窓は、窓に数箇所ついているハンドルレバーを回転させるとロックが外れます。



ロックを外した後で、窓を外側に押すと開きます。

窓を開いた状態で固定するには、押し出した状態から、窓を少し戻すとカチッとロックがかかり感じがあり手を離しても半開き状態がキープできます。この半開き状態の角度は4段階ほどあります。ただし、窓を90度以上開けると窓が外れて落ちてしまう可能性がありますので、開け過ぎないように注意してください。



また、すべての窓には、サンシェードと網戸がついています。

網戸を使いたいときは、窓の下側についているツマミを握りながら一番上までスライドさせます。

すると一番上で網戸の枠がカチッとハマって固定されます。

その状態でツマミを握らないで持ちながら、枠を下げていくと、網戸につながった状態でサンシェードが降りてきます。完全に遮光したいときは、ツマミを一番下の枠まで下ろします。

サンシェードを動かす際は、網戸の枠を水平状態に保った状態で上下にスライドさせるようにします。

水平でない状態上下に威動かすとサンシェードが途中で引っかかってしまいます。

押し出し窓のロックは、完全クローズ状態とわずかに換気ができるクローズ位置の2種類があります。回転させるレバーの先が2股に別れており、この2股で窓枠をまたぐ状態だとわずかに換気位置、二股の両方が窓枠よりも内側にあると完全クローズ位置です。

走行前には、押し出し窓が完全クローズ位置になっていることを十分に確認してください。

押し出し窓を閉め忘れたまま走行した場合、風圧により、もしくは障害物に接触して窓が破損する場合がありますのでご注意ください。

ベッド展開について

ジルにはベッドが3箇所あります。

バンクベッド（運転席の上）とダイネット（ダイニングテーブル）展開ベッド、後方2段ベッドです。

ベッド展開をするとシートベルトが装着できなくなってしまいますので、走行中はベッドとしての使用は禁止です。

① バンクベッドの展開方法



バンクベッド台の上に乗っているハシゴ移動させます。

バンクベッド台を手前に引き出しつつ、奥にあるマットレス部分も一緒に引き出します。

バンクベッド台が完全に引き出せたら、その上にマットレスを乗せ、ハシゴをかけます。

片付ける時はその逆です。

② ダイネット（ダイニングテーブル）展開ベッドの展開方法



テーブルの壁側はロック機構でパイプに固定されています。

テーブルの手前側を上引き上げ、パイプと固定されている2箇所のロック機構を外します。



ロック機構を外すには、レバーの一番上を手前側に倒します。左右2箇所ともロックを外します。



ロックを外したら、テーブルを運転席後方のシートの上に乗せます。

テーブルの脚の付け根を持ち、脚先の方へ引くと脚の折れ曲がり防止ロックが外れるので折り曲げます。



ダイネットの前後のソファのマットレスの下部分にテーブルが置ける小さな棚があるので、そこにテーブルを置きます。



助手席後方のテレビモニター横にある縦置きのマットレスを外し、テーブル板の上に乗せます。



あとは、運転席後方にあった背もたれクッションを枕代わりに使用します。
これでダイネットベッドの展開終了です。片付ける時はこの逆です。

③ 2段ベッド



2段ベッドは特にベッド展開は不要です。
下段のマットレスと中敷板を外すと、大きな収納スペースになっています。

マルチルームのトイレ、シャワー 使用禁止



マルチルームのシャワー及びトイレについては、メンテナンスの問題から使用禁止とします。
車両返却後、トイレ、シャワー使用の形跡が発見された場合には、クリーニング代として50,000円を請求させていただくこととなりますので使用しないようお願いいたします。

サブバッテリーの使用について

ジルには 100AH のバッテリーが 2 台、サブバッテリーとして搭載されています。

また、屋根にはソーラーパネルが設置されており昼間に快晴であればバッテリーは常に充電されています。

さらに走行充電システムが装備されているので、4 時間程度走行するとバッテリーを満充電することもできます。

車内装備品で一番電気を消費するのは冷蔵庫、その次が電子レンジです。

バッテリー駆動での長時間のエアコンの使用は避けてください。

・冷蔵庫について

主電源が ON 位置にあればインバータースイッチが ON でなくても冷蔵庫はずっと利用できます。

車両利用期間中はずっと冷蔵庫には電源が入った状態となっているため最も電気を消費します。

最低温度の温度設定（時計回りで一番右側）とするとそれだけ電気を消費してしまいますので、できれば温度設定はダイヤルスイッチの位置が 5 時の位置になるあたりがエコな設定となります。

・電子レンジについて

バッテリーの消耗を抑えるため 1 回あたりの使用は 2、3 分程度となるようにしてください。

バッテリーの残容量が少ない場合には、電子レンジが使用できない場合があります。

そのような場合には、エンジンを始動しアイドリング状態にするとエンジン発電機からバッテリーへの充電が開始されるため、電子レンジが使用できる場合があります。

この 2 点に気をつければ、2 泊 3 日程度のキャンプであればバッテリーが上がる心配はありません。

東和田ベースを出発する前に確認すること

走行を開始する前には、以下の項目の確認を必ず行なってから出発するようにしてください。

- ・車外を1周して車体に東和田ベース管理者との間で事前共有できていない傷やダメージがないこと。
もし事前共有ができていない傷やダメージが見つかった場合には、必ず出発前にその箇所を携帯電話カメラで撮影し、東和田ベース管理者にダメージを発見したことの報告とそのダメージ部分を写した画像をメール送付してください。
出発前にその連絡及び画像による記録がなかった場合には、車両返却後に管理者が発見した傷が出発後に発生したダメージであるもの判断し補修費用の負担をお願いする可能性がありますのでご注意ください。

また、コールセンターにその旨を連絡してください。 **コールセンター 24時間 OK 0120-310-950**

- ・盗難防止用タイヤロック、ハンドルロックを外す。
- ・すべての外部ドア、窓が完全に閉まっていて、ロックがされていること。
- ・車内各所の物入れドア、引き出し等のロックが確実になされていること。
- ・冷蔵庫のドアがロックされていること。

宿泊地を出発する前に確認すること

走行を開始する前には、以下の項目の確認を必ず行なってから出発するようにしてください。

車外を1周して以下のことを確認する。

- ・日常点検を実施すること
- ・すべての外部ドア、窓が完全に閉まっていて、ロックがされていること。
- ・外部電源コードが外れ車内に収納されていて外部電源接続部にゴムキャップが装着されていること。
- ・ガス供給機の元栓が閉まっていること。
- ・車外にキャンプ道具等の忘れ物がないこと。
- ・ゴミが駐車位置の周囲に放置されたままになっていないこと。

車内に入って以下のことを確認する。

- ・車内各所の物入れドア、引き出し等のロックが確実になされていること。
- ・冷蔵庫のドアがロックされていること。

車両返却前に確認すること

- ・燃料の給油ランプが点灯していないこと。
(点灯していた場合は、お手数ですが少なくとも5L分の給油をお願いします)
- ・サイドブレーキが確実にかかっていること。
(東和田ベースの駐車スペースは前面道路に向けて緩やかな下りになっています)
- ・すべての外部ドア、窓が完全に閉まっていて、ロックがされていること。
- ・冷蔵庫内に食品の置き忘れがないこと。
- ・FFヒータースイッチがOFFになっていること。
- ・**主電源スイッチがOFFになっていること。**
- ・車両を1周して車体全般を見て回り、出発前にはなかった傷やダメージがないか確認してください。
- ・盗難防止用タイヤロック、ハンドルロックをかけてください。
- ・ゴミを車内に放置しないでください。東和田ステーションは無人のためゴミの回収はできません。
- ・忘れ物がないかを確認してください。

日常点検チェックシート

自家用乗用車の日常点検チェックシート

点検実施日 2025年 月 日

判定 ○ or ×



① ブレーキ液の量

リザーバ・タンク内の液量が規定の範囲(上限ラインと下限ラインとの間)にあるかを点検します。

② 冷却水の量

リザーバ・タンク内の液量が規定の範囲(上限ラインと下限ラインとの間)にあるかを点検します。

③ エンジン・オイルの量

エンジンに付いているオイル・レベルゲージを抜きとり、付着しているオイルを拭き取ってからゲージをいっぱい
に差し込み、再度抜き取った際にオイルの量がオイル・レベルゲージにより示された範囲内にあるかを点検します。

④ バッテリー液の量

バッテリー液の量が規定の範囲(上限ラインと下限ラインとの間)にあるかを、車両を揺らすなどして点検します。

⑤ ウインド・ウォッシャー液の量

ウインド・ウォッシャー液の量が適当かを点検します。

⑥ ランプ類の点灯・点滅

エンジンスイッチを入れ、ランプ類の点灯・点滅具合が不良でないか、レンズなどに汚れや損傷がないかを
点検します。

⑦ タイヤの亀裂や損傷の有無

タイヤの亀裂や損傷の有無、タイヤに異物が付着したりかみ込んだりしていないかを入念に点検します。

⑧ タイヤの空気圧

タイヤの接地部のたわみ具合を確認して、タイヤの空気圧が規定の範囲内であることを点検します。

⑨ タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さが十分であることを、接地面のスリップ・サインを目印に点検します。スリップ・サインは、タイ
ヤ側面の三角マークのある位置の接地面に現れます。

⑩ エンジンのかかり具合・異音

エンジンが速やかに始動しスムーズに回転するか、またエンジン始動時やアイドリング状態で、異音がないかを点
検します。

⑪ ウインド・ウォッシャー液の噴射状態

ウインド・ウォッシャー液を噴射させ、ワイパーの作動範囲に噴射されるかを点検します。

⑫ ワイパーの拭き取り能力

ワイパーを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないか、ウインド・ウォッシャー液がきれいに拭き取れるか
を点検します。

⑬ ブレーキの踏み残りしろと効き具合

ブレーキ・ペダルをいっばいに踏み込んだとき、床板とのすき間(踏み残りしろ)や踏みごたえが適当であることを
点検します。

⑭ 駐車ブレーキの引きしろ(踏みしろ)

駐車ブレーキをいっばいに引いた(踏んだ)とき、引きしろ(踏みしろ)が多すぎたり、少なすぎたりしないかを点検
します。

⑮ エンジンの低速・加速状態

エンジンを暖機させた状態でアイドリング時の回転がスムーズに続くか、また、エンジンを徐々に加速したとき、ア
クセル・ペダルに引っかかりがないか、スムーズに回転するかを走行するなどして点検します。